

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年5月15日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自平成26年1月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	アクセルマーク株式会社
【英訳名】	AXEL MARK INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾下 順治
【本店の所在の場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	執行役員経理財務本部長 野口 仁
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	執行役員経理財務本部長 野口 仁
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期連結 累計期間	第22期 第2四半期連結 累計期間	第21期
会計期間	自平成24年 10月1日 至平成25年 3月31日	自平成25年 10月1日 至平成26年 3月31日	自平成24年 10月1日 至平成25年 9月30日
売上高 (千円)	1,725,645	1,710,890	3,523,715
経常利益又は経常損失 () (千円)	7,107	65,558	79,313
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失 () (千円)	15,120	46,247	69,452
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	15,120	46,247	69,452
純資産額 (千円)	1,480,055	1,610,573	1,564,351
総資産額 (千円)	1,860,132	2,006,166	1,957,529
1株当たり四半期(当期)純利益金 額又は1株当たり四半期純損失金額 () (円)	3.46	10.58	15.89
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	10.36	15.76
自己資本比率 (%)	79.6	80.3	79.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	100,441	166,344	260,636
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	9,638	507,623	89,786
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	7,390	9,275	27,890
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高 (千円)	831,933	517,702	868,256

回次	第21期 第2四半期連結 会計期間	第22期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 1月1日 至平成25年 3月31日	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.51	6.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、平成25年4月1日付にて普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
4. 第21期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式の残高はありますが、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるモバイルインターネットを取り巻く環境としては、日本国内におけるスマートフォン端末が普及拡大し続けており、MM総研の調査によると平成25年12月末におけるスマートフォン契約数は5,328万件で携帯電話契約数の44.5%（平成25年9月末時点から2.3%上昇）となっております。さらに、米IDC社の調査によると、2013年の全世界におけるスマートフォンの出荷台数が前年実績から38.4%増加し10億台を超え、今後も引き続き増加していくことが見込まれ、端末の普及を背景に、スマートフォンアプリ市場も拡大を続けております。

このような市場環境の下、モバイルゲーム事業においては、人気ゲームタイトルを新たなプラットフォームへ展開し、より多くのユーザーへ楽しんで頂けるよう取り組むとともに、1周年記念イベントの開催やボイス付きカードなどの新機能の追加により、長く楽しんで頂ける取り組みを実施することで収益確保に努めてまいりました。広告事業ならびにコンテンツ事業においては、フィーチャーフォン向け売上が引き続き減少する中、スマートフォン向けサービスの売上拡大に注力いたしました。

利益面については、売上拡大に必要な新規ゲームタイトルの開発を拡大するため、人員の配置転換と採用活動による先行投資の増大が利益を押し下げる一方、サービス運営及び開発の効率化と高度化を推進したことにより、営業黒字を確保することが出来ました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,710,890千円（前年同期比0.9%減）、営業利益は67,907千円（前年同期は7,800千円の営業損失）、経常利益は65,558千円（前年同期は7,107千円の経常損失）、四半期純利益は46,247千円（前年同期は15,120千円の四半期純損失）となりました。

各セグメントの業績は、次の通りであります。

(モバイルゲーム事業)

モバイルゲーム事業につきましては、「Mobage（モバゲー）」などにおいて提供しているブラウザゲーム「キングダムクロニクル」や「天空のレギオン」など既存タイトルにおいて、ユーザーからの根強い人気が続、記念イベントや新機能の追加などにより売上は安定的に推移しております。さらに、当第2四半期連結累計期間においては、人気タイトルのマルチプラットフォーム展開を行いました。

以上の結果、当セグメントの売上高は952,996千円（前年同期比6.0%増）、セグメント利益は133,148千円（前年同期比618.1%増）となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業につきましては、スマートフォン向け電子書籍コンテンツ「コミックmini」の販売促進を引き続き行ってまいりました。その一方、フィーチャーフォン向け売上については引き続き減少しております。

以上の結果、当セグメントの売上高は274,040千円（前年同期比32.5%減）、セグメント利益は17,240千円（前年同期比67.1%減）となりました。

(広告事業)

広告事業につきましては、フィーチャーフォン向け広告売上が減少する中、スマートフォン向けアドネットワーク「ADroute」の収益向上に注力してまいりました。「ADroute」は、クライアントからの出稿ニーズの高まりを背景に売上を拡大させてまいりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は486,254千円（前年同期比15.6%増）、セグメント利益は33,090千円（前年同期比26.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第 2 四半期連結会計期間末の総資産は、売掛金が39,816千円、のれんが56,757千円減少したものの、現金及び預金が155,446千円増加したこと等により前期末に比べて48,636千円増加し、2,006,166千円となりました。

負債については、短期借入金の返済9,250千円、賞与引当金が5,326千円減少したものの、買掛金が9,863千円、未払法人税等が11,144千円増加したこと等により前期末に比べて2,413千円増加し、395,592千円となりました。

純資産については、四半期純利益46,247千円の計上により、前期末に比べて46,222千円増加し、1,610,573千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末に比べて350,553千円減少し、当第 2 四半期連結会計期間末の資金残高は517,702千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、166,344千円の獲得（前年同期は100,441千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益65,558千円の計上及び売上債権の減少39,816千円並びにのれん償却及び減価償却費等の計上60,140千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、507,623千円の使用（前年同期は9,638千円の獲得）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入100,000千円があったものの、定期預金の預入による支出606,000千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、9,275千円の使用（前年同期は7,390千円の使用）となりました。これは主に、短期借入金の純減額9,250千円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,370,900	4,370,900	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	4,370,900	4,370,900	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年1月1日～ 平成26年3月31日	-	4,370,900	-	563,900	-	148,821

(6) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社セブテーニ・ホールディングス	東京都新宿区西新宿八丁目17番1号	2,401,000	54.93
尾下 順治	東京都武蔵野市	210,300	4.81
小林 靖弘	東京都世田谷区	192,300	4.40
会田 研二	東京都八王子市	119,500	2.73
楽天証券株式会社	東京都品川区東品川四丁目12番3号	112,200	2.57
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	95,900	2.19
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町一丁目4番地	57,700	1.32
株式会社アイシーピー	東京都千代田区西神田二丁目5番8号	57,000	1.30
原田 ハル子	神奈川県横浜市港北区	52,100	1.19
藤原 治	東京都世田谷区	41,200	0.94
計	-	3,339,200	76.40

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,370,500	43,705	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式
単元未満株式	普通株式 400	-	-
発行済株式総数	4,370,900	-	-
総株主の議決権	-	43,705	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
アクセルマーク株式会社	東京都中野区本町 一丁目32番2号	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 当社は、単元未満自己株式33株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	968,256	1,123,702
売掛金	497,586	457,770
仕掛品	3,803	10,821
貯蔵品	1,323	794
その他	34,995	20,666
貸倒引当金	13,956	12,871
流動資産合計	1,492,008	1,600,884
固定資産		
有形固定資産	23,987	22,145
無形固定資産		
のれん	371,555	314,798
その他	1,906	2,148
無形固定資産合計	373,462	316,946
投資その他の資産		
敷金及び保証金	68,071	66,189
その他	0	0
投資その他の資産合計	68,071	66,189
固定資産合計	465,520	405,281
資産合計	1,957,529	2,006,166
負債の部		
流動負債		
買掛金	210,702	220,566
短期借入金	9,250	-
未払法人税等	10,021	21,166
賞与引当金	35,511	30,184
ポイント引当金	12,228	11,923
その他	114,831	111,752
流動負債合計	392,546	395,592
固定負債		
その他	632	-
固定負債合計	632	-
負債合計	393,178	395,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	563,900	563,900
資本剰余金	1,116,770	1,116,770
利益剰余金	116,518	70,270
自己株式	-	25
株主資本合計	1,564,152	1,610,374
新株予約権	198	198
純資産合計	1,564,351	1,610,573
負債純資産合計	1,957,529	2,006,166

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年10月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年10月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	1,725,645	1,710,890
売上原価	1,043,530	1,027,757
売上総利益	682,114	683,132
販売費及び一般管理費	689,915	615,225
営業利益又は営業損失 ()	7,800	67,907
営業外収益		
受取利息	80	179
還付加算金	-	98
事業譲渡益	1,428	-
その他	797	78
営業外収益合計	2,305	355
営業外費用		
支払利息	226	93
株式上場関連費用	1,355	1,584
解約違約金	-	964
その他	31	62
営業外費用合計	1,613	2,703
経常利益又は経常損失 ()	7,107	65,558
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	7,107	65,558
法人税、住民税及び事業税	8,012	19,311
法人税等合計	8,012	19,311
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 ()	15,120	46,247
少数株主利益	-	-
四半期純利益又は四半期純損失 ()	15,120	46,247

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	15,120	46,247
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	15,120	46,247
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,120	46,247
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	7,107	65,558
減価償却費	5,060	3,383
のれん償却額	70,489	56,757
貸倒引当金の増減額(は減少)	835	1,085
賞与引当金の増減額(は減少)	5,590	5,326
ポイント引当金の増減額(は減少)	3,981	305
事務所移転費用引当金の増減額(は減少)	23,172	-
受取利息及び受取配当金	80	179
支払利息	226	93
売上債権の増減額(は増加)	88,880	39,816
仕入債務の増減額(は減少)	21,371	9,863
前払費用の増減額(は増加)	3	3,225
その他	41,106	1,254
小計	80,557	173,055
利息及び配当金の受取額	80	179
利息の支払額	239	93
法人税等の支払額	2,916	6,797
法人税等の還付額	22,959	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	100,441	166,344
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	606,000
定期預金の払戻による収入	-	100,000
有形固定資産の取得による支出	7,184	883
無形固定資産の取得による支出	1,000	900
敷金の回収による収入	18,047	-
その他	224	160
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,638	507,623
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	29,750	9,250
長期借入金の返済による支出	37,329	-
新株予約権の発行による収入	189	-
自己株式の取得による支出	-	25
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,390	9,275
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	102,690	350,553
現金及び現金同等物の期首残高	729,242	868,256
現金及び現金同等物の四半期末残高	831,933	517,702

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
給料手当	234,693千円	217,806千円
広告宣伝費	73,503	39,873
のれん償却費	70,489	56,757
賞与引当金繰入額	33,848	29,856
減価償却費	3,623	2,903
貸倒引当金繰入額	773	1,057

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
現金及び預金	831,933千円	1,123,702千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	606,000
現金及び現金同等物	831,933	517,702

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成24年12月21日付で、自己株式の消却を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式と資本剰余金がともに47,704千円減少しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	コンテンツ 事業	広告事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	898,927	406,202	420,515	1,725,645	-	1,725,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	20	20	20	-
計	898,927	406,202	420,535	1,725,665	20	1,725,645
セグメント利益又は損失 ()	18,541	52,372	44,799	115,713	123,514	7,800

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	115,713
のれんの償却額	30,742
全社費用(注)	92,772
四半期連結損益計算書の営業損失	7,800

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業 (注)	コンテンツ 事業	広告事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	952,996	274,040	483,853	1,710,890	-	1,710,890
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	2,400	2,400	2,400	-
計	952,996	274,040	486,254	1,713,291	2,400	1,710,890
セグメント利益	133,148	17,240	33,090	183,479	115,572	67,907

(注)平成26年9月期第1四半期より、従来の「ソーシャルゲーム事業」から「モバイルゲーム事業」へとセグメント名称を変更しています。

なお、セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	183,479
のれんの償却額	30,259
全社費用（注）	85,312
四半期連結損益計算書の営業利益	67,907

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自平成24年10月1日 至平成25年3月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成25年10月1日 至平成26年3月31日）
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額（ ）	3円46銭	10円58銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（ ）（千円）	15,120	46,247
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（ ）（千円）	15,120	46,247
普通株式の期中平均株式数（株）	4,370,900	4,370,890
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	10円36銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益調整額（千円）	-	-
普通株式増加数（株）	-	92,023
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	-	-

（注）1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載していません。

2 当社は、平成25年4月1日付にて普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

孫会社の設立

当社の連結子会社でありますアクセルゲームスタジオ株式会社は、平成26年4月8日の取締役会において子会社(当社の孫会社)の設立を決議し、平成26年4月11日に新会社を設立いたしました。

設立の目的

新規にネイティブゲームアプリを開発するチームを組成し開発ラインを確保することで、さらなるヒットタイトルの創出によりモバイルゲーム事業の一層の拡大と成長を目指すことを目的として設立いたしました。

子会社の概要

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 商号 | アクセルゲームスタジオ株式会社 |
| (2) 所在地 | 東京都中野区本町一丁目32番2号 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 尾下 順治 |
| (4) 事業内容 | モバイルゲームの企画・開発・運営 |
| (5) 資本金 | 1,000万円 |

孫会社の概要

- | | |
|-----------|------------------------------|
| (1) 商号 | 株式会社 Interraps |
| (2) 所在地 | 東京都中野区本町一丁目32番2号 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 尾下 順治 |
| (4) 事業内容 | モバイルゲームの企画・開発・運営 |
| (5) 資本金 | 2,500万円 |
| (6) 設立年月日 | 平成26年4月11日 |
| (7) 出資比率 | 当社連結子会社 アクセルゲームスタジオ株式会社 100% |

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月15日

アクセルマーク株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 憲一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石井 広幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアクセルマーク株式会社の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アクセルマーク株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。